



東宝株式会社



第118期 報告書

平成18年3月1日から
平成19年2月28日まで



開かれた映画会社として社内外の才能を集結し、グループの活性化と継続的な成長を実現します。



代表取締役社長
高井 英 幸

今回は、不動産再開発であると同時に映画事業への積極策でもある東宝スタジオ改造計画(平成16年(2004年)8月着工)について、高井社長ならびにスタジオ担当の中川専務からご紹介いたします。



- ①新No.3・4ステージ(平成19年12月完成予定)
 - ②ポストプロダクションスタジオ(サウンドスタジオ):編集・音声などの作業スタジオ。
 - ③プロダクションセンター:撮影スタッフの基地。
 - ④新オフィス棟(平成19年7月完成予定)
 - ⑤アクターズセンター:キャスト控室とレストランがあります。
 - ⑥本館:スタジオ管理オフィス。
 - ⑦東宝日曜大工センター成城店(東宝共栄企業株経営)
- ※詳細は、東宝スタジオホームページ<http://www.tohostudio.jp/>をご覧ください。

■ 東宝スタジオ改造計画とは？

高井 シネコンの出現により映画人口が再び増え、かつお客様にとって洋画と邦画の垣根もなくなってきたことはうれしいことですが、それに伴い邦画の製作本数が増加しています。これを機にこれまで先送りになっていたスタジオの全面的な改築に着手しようということになったわけです。映画技術がデジタル化へ変貌するなか、スタジオの近代化は当社グループの将来成長に不可欠な課題です。こうした課題に取り組む上でふさわしい役員は誰かということで、永年にわたる宣伝や製作の経験から豊富な人脈を持つ中川専務に担当してもらうことになりました。平成20年(2008年)春完成を目処とする第一次改造計画は、設備投資50億円、年間映画製作本数30本を可能にする12ステージ体制が確立されます。

■ 開かれたスタジオとは？

中川 今回の改造はハードとソフトの両面にわたっています。まずハード面では200坪の大型ステージが5棟、製作スタッフや俳優の方の関連施設が3棟、美術など映画製作を支えるバックヤード関連が3棟の計11棟の新設があります。特に映画専用ステージには特殊撮影用にワイヤーアクション設備を設け、また全施設に高速通信網を完備してスタジオ内外との映像通信を容易にするなど、大型娯楽作品への対応力を強化しました。ソフト面では“開かれたスタジオ”を合言葉に、自社だけでなく全ての映画関係の皆



様にも利用していただける門戸開放や価格の見直しを行い、現在はフル稼働状態が続くようにまで変わりました。

こうした結果、日本映画界を代表する製作基地との高いご評価をいただいています。

■ 魅力あるスタジオとは？

高井 東宝スタジオは、成城学園前という都心に近い便利な場所にあり、忙しい役者さんやスタッフの方々には魅力的な位置です。また、近年の映画製作はテレビやCMで活躍している才能ある人たちとの接触が増えました。彼らとのコラボレーションをより創造的に図るため、スタジオへのご意見も伺いながら、スタッフ、キャストの才能を、最大限に発揮できるようなスタジオ作りができればと思っています。

中川 今回のスタジオ改造では、そういった外部の方々によるアドバイザー委員会を設置して、「こうして欲しい」というニーズをしっかりと掴めたことも大きいですね。早稲田大学と画像処理ネットワークを構築して映画の仕上げ機能を高めたり、新レストランなどファシリティーの充実で快適な創造空間を提供できるようにもなりました。製作スタッフ・俳優の方からも大変喜ばれています。今後も東宝スタジオを、一層使いやすく、さらに機能を高めて行くことにより、多様な“才能が集う”場所とすることで新たな企画作品が生まれ、東宝の映画事業全体の成長に結びつくものと確信しています。

■ 東宝スタジオが担う役割とは？

中川 現代のスタジオ経営では“自前で持つ部分と持たざる部分”を戦略的に明確化することが重要です。映画技術が日進月歩で進む現在、デジタル撮影機材などはスタジオが自前で持つより、レンタルの方が常に最新の技術に対応できます。人材も同様に優れたフリースタッフの活用が不可欠ですが、また一方で東宝内部に持ち続けるべき技術もあります。映画会社ならではの美術・編集・音声技術は映画の完成度を左右する重要な役割を担います。こうした技術を伝承し、グループ全体で高めて行くことも、スタジオにおける継続的なテーマと考えています。



専務取締役
中川 敬

『建設中の「オフィス棟」横の新ゲートには、昭和29年にここで撮られた名作「七人の侍」のワンシーンが描かれます。』と中川専務

■ 平成19年に向けて

高井 平成19年度は、旧本社跡地に建設中のシアタークリエビルの完成と、ここにできる新演劇劇場とホテルのオープン、東宝スタジオ改造計画、また映画興行事業の再編など、様々な施策が進展する年です。今後はこれらをどう成果につなげて行くことができるか、着実に事業を進捗させ、株主の皆様のご期待にお応えする所存です。

株主の皆様には、引き続き厚いご支持ご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。



「アクターズセンター」内の明るいレストランで

事業の経過及びその成果

当期におけるわが国の経済は、引続き好調な世界の景気に支えられて企業収益は改善が続いたものの、個人消費は伸び悩みが見られました。

映画界におきましては、スクリーン数は前年比136増の3,062に達し、興行収入も2千億円台を回復するとともに、21年ぶりに邦画のシェアが洋画を上回ることとなりましたが、洋画の興行収入は前年比2割減と不振が続き、1スクリーン当たりの興行収入も減少が続くなどの課題を抱えて推移いたしました。

このような情勢下において当社グループの業績は、映画事業のうち前期を上回るヒット作が続いた映画営業事業部門が成績を伸ばすとともに、東宝南街ビル等の新規物件が寄与した不動産賃貸事業部門がこれに続き、スクリーン数が増加した映画興行事業部門が微増となりましたが、映像事業、演劇事業、及び不動産事業のうち道路、不動産保守・管理の各事業部門は伸び悩みました。この結果営業収入は2,010億2千6百万円（前期比1.0％減）、経常利益は、255億1千8百万円（前期比6.9％増）となりましたが、法人税等の増により、当期純利益は77億7千8百万円（前期比27.7％減）となりました。

また、東宝(株)及びグループ内の大会社各社では、それぞれ内部統制の体制の基本方針を決議し、同体制の整備を進めました。以下各事業部門ごとにご報告申し上げます。

■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、東宝(株)において「名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌」「チェケラッチョ!!」「LIMIT OF LOVE 海猿」「嫌われ松子の一生」「トリック 劇場版2」「着信アリFinal」

「日本沈没」「ゲド戦記」「劇場版NARUTOーナルト 大興奮！みかづき島のアニマル騒動だってばよ!」「ラフ」「UDON」「シュガー&スパイス ～風味絶佳～」「涙そうそう」「虹の女神 Rainbow Song」「7月24日通りのクリスマス」「NANA2」「劇場版BLEACH MEMORIES OF NOBODY」「劇場版 どうぶつの森」「愛の流刑地」「それでもボクはやってない」「バブルへGO!! タイムマシンはドラム式」を共同製作したほか、「映画ドラえもん のび太の恐竜2006」「真救世主伝説 北斗の拳 ラオウ伝 殉愛の章」「クレヨンしんちゃん 伝説を呼ぶ 踊れ！アミーゴ!」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション ポケモンレンジャーと蒼海の王子マナフィ」「犬神家の一族」「どろろ」の27本を、また東宝東和(株)において「マリー・アントワネット」等を配給いたしました。この結果、映画営業事業収入は、401億9千5百万円（前期比15.3％増）となりました。

映画興行事業では、周囲を取り巻く厳しい環境の中、効率の高い経営を目指して、平成18年10月1日付けで東宝(株)の映画興行部門を分割し、100％子会社のTOHOシネマズ(株)に吸収いたしました。期中上映作品は、前記のほか「ダ・ヴィンチ・コード」「ミッション・インポッシブル：III」「ナルニア国物語 ライオンと魔女」「デスノート」「バイレーツ・オブ・カリビアン：デッドマンズ・チェスト」「ワールド・トレード・センター」「プラダを着た悪魔」「幸せのちから」等、邦洋の話題作を、東宝(株)、TOHOシネマズ(株)ほかグループ各興行会社において上映いたしました結果、映画興行事業収入は、565億7千3百万円（前期比0.5％増）となりました。

なお当社グループの期中の劇場異動は表1のとおりとなり、新規オープンいたしました各劇場はそれぞれ順調に稼働しております。これらにより、当社グループのスクリーン数は52増の合計538スクリーン（共同経営32を含む。）となり、さらに充実度を向上させました。

表1. 当社グループの期中の劇場異動

月日	劇場名	スクリーン数	場所	経営主体	異動内容
平成18年3月1日	フォルテ東宝7	△7	宮城県仙台市	三和興行(株)	番組提携館（経営は地元企業）へ変更
3月8日	熊本東宝プラザ	△2	熊本市	九州東宝(株)	閉館
3月11日	TOHOシネマズ はまぜん	9	熊本市	九州東宝(株)	オープン
3月17日	TOHOシネマズ 八千代緑が丘	10	千葉県八千代市	東宝(株)	オープン
3月31日	船堀シネバル	△2	東京都江戸川区	東宝東日本興行(株)	業務提携館（経営は自治体）へ変更
4月14日	長野東宝グランド	△2	長野市	東宝東日本興行(株)	閉館
4月20日	TOHOシネマズ 錦糸町	8	東京都墨田区	(株)東京楽天地	オープン
4月27日	TOHOシネマズ モレラ岐阜	12	岐阜県本巣市	中部東宝(株)	オープン
5月8日	錦糸町シネマ8美天地 (美天地シネマズ跡地・旧名所変更)	△4	東京都墨田区	(株)東京楽天地	8スクリーン中4スクリーン閉館
7月15日	TOHOシネマズ 岡南（こうなん）	10	岡山市	東宝関西興行(株)	オープン
8月31日	OS三劇	△2	神戸市	オーエス(株)	閉館
8月31日	OSシネフェニックス	△3	神戸市	オーエス(株)	他社へ経営移管
9月15日	新宿文化シネマ	△4	東京都新宿区	三和興行(株)	閉館
9月22日	TOHOシネマズ なんば	9	大阪市中央区	東宝(株)	オープン
9月24日	OSスバル座	△1	大阪市中央区	オーエス(株)	閉館
10月4日	OSシネマズ ミント神戸	8	神戸市	オーエス(株)	オープン
10月11日	鹿児島東宝	△3	鹿児島市	九州東宝(株)	閉館
10月14日	TOHOシネマズ 与次郎	10	鹿児島市	九州東宝(株)	オープン
平成19年2月8日	新宿スカラ座	△3	東京都新宿区	三和興行(株)	閉館
2月9日	新宿バルト9	9	東京都新宿区	TOHOシネマズ(株)・(株)ディ・ジョイ共同経営	オープン

注1：(株)東京楽天地及びオーエス(株)は、持分法適用会社です。
2：(株)ディ・ジョイは、東映グループが株式の50.3％を保有している映画興行会社です。

映像事業のうち映像制作事業では、東宝(株)においてテレビ放送用ドラマ「富豪刑事デラックス」10本、「偽りの花園」65本、2時間ドラマ「銭華」ほか計90本を制作し、また劇場用映画「トリック劇場版2」「7月24日通りのクリスマス」の2本を製作しました。また(株)東宝映画において「ラフ」「愛の流刑地」「眉山」を製作いたしました。ビデオ事業は、東宝(株)において表2のとおり提供をおこないました。

表2. 東宝(株)において期中に提供した主なビデオ作品

作品・商品名	年	レンタル用DVD (リリース日)	販売用DVD (発売日)
タッチ	平成18年	3月17日	3月24日
若大将 フレッシュマンBOX			3月24日
コント55号結成40周年記念ムービーBOX			3月24日
クレージーキャッツ 日本一ボックス			5月26日
ALWAYS 三丁目の夕日		6月9日	
あらしのよるに		6月9日	6月23日
若大将 アラウンド・ザ・ワールド			6月23日
映画 ドラえもん のび太の恐竜2006		8月4日	
THE 有頂天ホテル		8月4日	8月11日
名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌		9月8日	
県庁の星	平成19年	10月13日	10月27日
嫌われ松子の一生		11月10日	
トリック 劇場版2		12月8日	12月15日
日本沈没		1月19日	
きまぐれオレンジ・ロード THE SERIES			2月23日

出版・商品事業は、東宝(株)配給ヒット作品関連のほか、「ダ・ヴィンチ・コード」等が順調に稼働いたしました。ビデオ事業、出版・商品事業とも高稼働作品の小粒化により前期比減となりました。版權事業は「東宝怪獣キャラクター」「超神神シリーズ」等の商品化権収入に加え、「シャル・ウィ・ダンス？」他による各種受取配分金がありました。

また、(株)東宝映像美術では映画の美術製作、テーマパークの展示物の製作業務等の受注においてマニュアル化を進め、効率の向上をはかりました。

しかしながら映像事業収入は前期には及ばず、293億1千5百万円（前期比12.8％減）となりました。

以上の結果、映画事業収入は、1,260億8千4百万円（前期比1.0％増）となりました。



■ 「LIMIT OF LOVE 海猿」
©2006 フジテレビジョン・ROBOT・ボニーキャニオン・東宝・小学館・FNS27社



■ 「映画ドラえもん のび太の恐竜2006」
©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ動画・ADK 2006



■ 「マリー・アントワネット」
©2005 I Want Candy LLC.



■ TOHOシネマズ モレラ岐阜



■ 「ラフ」©2006「ラフ」制作委員会



■ クレージーキャッツ 日本一ボックス

■ 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)において帝国劇場公演を展開、昨年3月の「Endless SHOCK」、ミュージカル「ミー＆マイガール」「ダンス オブ ヴァンパイア」、「放浪記」、「ご存知！夢芝居一座」、ミュージカル「マリー・アントワネット」が軒並み大ヒットいたしました。本年1・2月も「Endless SHOCK」を上演し、全公演即日完売となりました。また同じく日生劇場において、「レ・ミゼラブル」「エリザベート」がいずれも大入りとなりました。さらに、全国へと展開を続けている東宝演劇の各公演も大きく寄与をいたしました。一方、東宝芸能(株)では、芸能部門で長澤まさみのCMが好調をみました。しかしながら、東宝(株)において帝国劇場が改修工事のため2ヶ月間休館するなど公演本数が減少したため、演劇事業収入は126億4千6百万円（前期比10.0%減）となりました。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、東宝(株)の不動産経営部門において、昨年3月に高松東宝ビル（スーパーホテル高松田町）とアビティたまプラーザ（賃貸マンション）が、9月には大規模複合施設「東宝南街ビル」（主要テナントはTOHOシネマズなんば・なんばマルイ）が竣工オープンし、それぞれ業績に貢献いたしました。その一方で旧本社跡地に建設中の東宝シアタークリエビル等に加え、仙台東宝ビルが再開発のため休館に入りました。また同社東宝スタジオでは「開かれたスタジオ」の合言葉のもと、引き続き積極的な営業展開を行い、映画では「犬神家の一族」「愛の流刑地」「西遊記」など東宝配給作品のほか、他社配給となる「武士の一分」などをも含め昨年を上回る25本の作品を誘致し、83%という高稼働率で推移いたしました。6月には「第10ステージ」が、9月には「アクターズセンター」「プロダクションセンター」がオープンし、ますます利便性が高まりました。昨年オープンしたCM専用の2ステー

ジも今期はフル稼働し、CM製作では約130本の作品を誘致し、収益向上に寄与いたしました。また東宝不動産(株)でも、ビル諸設備の充実、テナントへのきめ細かな対応をはかるとともに積極的に新規賃貸物件の取得に努め、さらに全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社も、営業努力を続けました。これらの結果、不動産賃貸事業収入は264億4千8百万円（前期比5.3%増）となりました。

道路事業では、スバル興業(株)とその連結子会社が、国及び地方自治体の財政改革に伴う公共事業費縮減、同業他社との受注・価格競争激化など厳しい事業環境下、技術の向上やグループ企業間の連携のもと各地区にわたり積極的な営業活動を展開いたしました。道路事業収入は188億8千6百万円（前期比1.8%減）となりました。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)、(株)東宝サービスセンター及び(株)東宝セキュリティにおいて営業及びコスト削減努力を重ねましたが、景気回復の恩恵が当業界まで届かず、不動産保守・管理事業収入は113億4百万円（前期比6.1%減）となりました。

以上の結果、不動産事業収入は566億3千8百万円（前期比0.4%増）となりました。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業では、(株)東宝エンタープライズ及び東宝共栄企業(株)において営業努力を重ねましたが、日曜大工センターでの消費者動向が引続き厳しく、その他事業収入は56億5千6百万円（前期比27.2%減）となりました。

来期の見通し

今後の経済情勢は、世界経済が多極化する中、企業収益の改善がどれだけ個人消費に波及するかが問われるものと思われます。

映画業界は、スクリーン数こそ3,000を回復したものの興行収入が伴わず、邦洋の大ヒット作品の頻出が希求される中、地域での映画館の競争は激化し、コスト抑制が勝ち残りのキーワードになるものと思われます。また邦画“復活”に伴う大量製作・供給の状況下、お客様による作品の選別はますます厳しくなると予想されます。

そのような中、当社グループの来期における業績見通しは、営業収入2,000億円（前期比0.5%減）、経常利益205億円（前期比19.7%減）、当期純利益は110億円（前期比41.4%増）をそれぞれ予想いたしております。当期純利益は過去最高が見込まれます。

以下各事業部門別の見通し（2月末現在）をご説明申し上げます。

■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、東宝(株)において「バッテリー」「アンフェアthe movie」「名探偵コナン 紺碧の棺」「眉山」「そのときは彼によろしく」「舞妓 Haaaan!!!」「西遊記」「HERO」「Life 天国で君に逢えたら」「クロズド・ノート」「ALWAYS 続・三丁目の夕日」「マリと子犬の物語」「椿三十郎」「銀色のシーズン」「スマイル 聖夜の奇跡」を共同製作するほか、配給受託作品として「映画ドラえもん

のび太の新魔界大冒険 7人の魔法使い」「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ 歌う ケツだけ爆弾!」「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ディアルガVSパルキアVSダークライ」「劇場版NARUTOーナルト疾風伝」を、また東宝東和(株)において「ハンニバル・ライジング」「アポカリプト」「ラッシュアワー3」「グッド・シェパード」等を配給いたします。これらにより、映画営業事業収入は、337億円（前期比16.2%減）を見込んでおります。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)ほかグループ各興行会社において前記配給作品に加え「スパイダーマン3」「ダイ・ハード4.0」「トランスフォーマー」「ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団」「パイレーツ・オブ・カリビアン／ワールド・エンド」等の大作・話題作を上映する予定でございます。これらにより、映画興行事業収入は、633億円（前期比11.9%増）を見込んでおります。

一方、当社グループの来期中の劇場異動予定は表の通りとなり、引続き興行体制の強化に努めてまいります。

来期中の劇場異動予定

月日	劇場名	スクリーン	場所	経営主体	異動内容
3月12日	TOHOシネマズ 流山おおたかの森	11	千葉県流山市	TOHOシネマズ(株)	オープン
3月15日	TOHOシネマズ ららぽーと横浜	13	横浜市	TOHOシネマズ(株)	オープン
4月30日	長野東宝中劇	△1	長野市	関東共栄興行(株)	閉館
7月上旬	TOHOシネマズ サストリート茨城(仮称)	9	静岡県浜松市	TOHOシネマズ(株)	オープン
7月下旬	浦和ヴェルデ東宝	△3	さいたま市	東宝東日本興行(株)	閉館

映像事業のうち映像制作事業では、東宝(株)において連続ドラマ、2時間ドラマを中心にテレビ番組を制作し、また



■ 帝国劇場公演「ミー＆マイガール」



■ 東宝南街ビル



■ 東宝スタジオ
アクターズセンター



■ 「西遊記」
©2007「西遊記」製作委員会



■ 「スパイダーマン3」
©2007 Sony Pictures Industries, Inc.
All Rights Reserved.



■ TOHOシネマズ 流山おおたかの森

劇場用映画「そのときは彼によろしく」「Life 天国で君に逢えたら」ほかを製作いたします。さらに(株)東宝映画においては「そのときは彼によろしく」「マリと子犬の物語」等6本を製作いたします。ビデオ事業は、レンタル用として「涙そうそう」「ラフ」「NANA 2」「愛の流刑地」「映画ドラえもん のび太の新魔界大冒険 7人の魔法使い」「それでもボクはやってない」「ブラック・ダリア」等を提供し、セル用として「ブラック・ダリア」「NANA 2」「夏物語」「愛の流刑地」「それでもボクはやってない」のほか、セル用DVDボックス「きまぐれオレンジ・ロード THE O.V.A」等で売上伸長をはかります。

出版・商品事業は「映画ドラえもん のび太の新魔界大冒険 7人の魔法使い」「スパイダーマン3」「名探偵コナン 紺碧の棺」「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ディアルガVSパルキアVSダークライ」「トランスフォーマー」「西遊記」「HERO」を中心に展開いたします。版權事業は、「東宝怪獣キャラクター」を中心とした商品化権ビジネスに注力し、版權事業の収入増を目指します。また、(株)東宝映像美術では厳しい受注環境の中、一層のコスト削減と管理改善に努めます。これらにより、282億円（前期比3.8％減）の映像事業収入を見込んでおります。

以上の結果、映画事業収入は、1,252億円（前期比0.7％減）を見込んでおります。

■ 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)において、帝国劇場で3月森光子

主演「雪まろげ」、4・5月はミュージカル「マリー・アントワネット」東京凱旋公演、6・7・8月は日本公演20周年を迎える不朽の名作「レ・ミゼラブル」、9月ジャニーズ公演「DREAM BOYS」、10月から11月上旬まで「イーストウィックの魔女たち」、11月下旬から12月は「モーツァルト！」を上演いたします。また、11月には新劇場・シアタークリエが満を持してオープンいたします。記念すべきオープニング作品第一弾は12月まで、日本を代表する劇作家 三谷幸喜作・演出により「恐れを知らぬ川上音二郎一座」を上演。明年1・2月は「放浪記」を上演いたします。日生劇場では4月にミュージカル「ジキル&ハイド」、明年2月には新作ミュージカル「ウェディング・シンガー」を予定しております。ル テアトル銀座では4月「三婆」、新宿コマ劇場にて7月「ちぎれた雲はどこへ行く」、シアターアプル9月「Mr.レディ Mr.マダム」、11月「プリティ・ガール」など東京公演を基点とした巡回公演も積極的に取り組み、東宝演劇公演を全国へ展開いたします。また東宝芸能(株)では、新分野への挑戦として子供の情操教育に演劇を適用した能力開発スクール「東宝ジュニア」を開講します。

これらにより、演劇事業収入は、129億円（前期比2.0％増）を見込んでおります。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、東宝(株)の不動産経営部門において、建設中の有楽町東宝ビル（竣工予定平成19年3月）、函館東宝ビル（同5月）、高知東宝ビル（同10月）、そして東

宝シアタークリエビル（同11月）が次々に完成いたします。また、京都東宝ビル・京極東宝ビル・仙台東宝ビルにつきましても、鋭意工事を進めてまいります。そのほか全国で稼働中の賃貸物件につきましても、順次設備の改善を実施しながら、賃貸収入増をめざすとともに、さらなる収益の改善をはかります。また同社の東宝スタジオでは、現在建築中の「オフィス棟」が7月末に竣工し、スタジオ内の東宝グループ各社のオフィスがここに集結することで、運営効率化とサービス向上をめざします。スタジオの顔となる正面玄関も同棟近くに移り、スタジオの変貌をアピールします。さらに4月から新たに映画用として「第3、第4ステージ」の新築工事に着手し、年内に竣工する予定です。それぞれ有効面積200坪で、完成すれば12ステージ体制となり、年間30本の映画を受け入れられる体制を整えてまいります。また東宝不動産(株)においては、テナントのニーズにマッチした快適で安全なスペースの提供をはかるとともに、立地・環境・収益性等に優れた新規賃貸物件の取得を推進し、さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社においても営業努力を続けてまいります。これらにより、不動産賃貸事業収入は297億円（前期比12.3％増）を見込んでおります。

道路事業では、民営化新会社の動向、国及び地方自治体による公共事業の縮減等、依然として厳しい環境が続くものと思われます。スバル興業(株)とその連結子会社においては、引続き営業力と価格競争力の強化をはかり、業績の改善に努めますが、受注環境はさらに厳しく、道路事業収入は177億円（前期比6.3％減）を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び(株)東宝サービスセンターを中心として、受注価格の低下と求人の困難化という両面からの厳しい環境下、適正な労働設備によるコスト削減と新規受注・臨時業務の拡大に努め、市場競争力強化を推進することにより、不動産保守・管理事業収入は107億円（前期比5.3％減）を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業収入は581億円（前期比2.6％増）を見込んでおります。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、(株)東宝エンタープライズ、東宝共栄企業(株)で、厳しい営業環境のもと、地域や世代のニーズに密着したサービスに努めることで、その他事業収入38億円（前期比0.2％減）を見込んでおります。

なお、連結子会社であった阪急東宝リース(株)は、平成18年11月1日付ですべての事業用資産（リース・割賦資産）を住信リース(株)に譲渡し、平成19年2月28日をもって解散いたしましたため、これを含めるとその他事業全体では18億5千6百万円（前期比32.8％減）の減収となる見込みです。

本報告書に記載の金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てております。



■ 「そのときは彼によろしく」
©2007「そのときは彼によろしく」製作委員会



■ DVD「涙そうそう」



■ シアタークリエ オープニング公演
「恐れを知らぬ川上音二郎一座」



■ 11月オープン予定の
東宝シアタークリエビル
（東京都千代田区）



■ 東宝スタジオ
新オフィス棟（7月竣工予定）



■ 東宝ダンスホール イベント風景
（(株)東宝エンタープライズ）

連結貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成19年2月28日 現在	平成18年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	74,709	74,332
現金及び預金	22,838	24,814
受取手形及び売掛金	16,545	16,933
有価証券	4,357	4,821
たな卸資産	11,218	12,468
繰延税金資産	3,239	2,706
現先短期貸付金	12,631	8,999
その他	4,269	4,125
貸倒引当金	△390	△536
固定資産	295,480	298,002
1 有形固定資産	134,815	139,771
建物及び構築物	90,815	79,245
機械装置及び運搬具	2,473	5,388
器具及び備品	1,665	4,828
貸与資産	—	6,684
土地	35,836	35,066
建設仮勘定	4,025	8,558
無形固定資産	9,539	10,541
借地権	1,034	1,034
のれん	7,512	—
連結調整勘定	—	8,013
その他	991	1,493
投資その他の資産	151,126	147,688
投資有価証券	122,400	119,024
繰延税金資産	955	1,788
差入保証金	17,851	16,616
その他	10,588	11,437
貸倒引当金	△670	△1,178
資産合計	370,190	372,335

1 有形固定資産

4,956百万円減少しておりますが、主に建物及び構築物の増11,569百万円と、阪急東宝リース㈱の資産譲渡等に伴い機械装置及び運搬具が2,915百万円、器具及び備品が3,163百万円、貸与資産が6,684百万円減少し、建設仮勘定も東宝南街ビル等の竣工により4,532百万円減少したことによるものです。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年2月28日 現在	平成18年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	46,817	49,876
買掛金	10,501	12,446
短期借入金	4,392	11,737
1年以内返済予定長期借入金	1,765	—
未払金	4,527	4,946
未払費用	7,488	7,779
未払法人税等	7,446	3,400
未払消費税等	531	358
賞与引当金	980	1,022
役員賞与引当金	252	—
アスベスト対策工事引当金	57	446
受注損失引当金	11	42
預り保証金(1年内返還)	2,220	—
その他	6,641	7,695
固定負債	75,812	79,768
社債	20,000	20,000
長期借入金	1,841	5,958
繰延税金負債	20,331	19,251
退職給付引当金	5,884	6,053
役員退職慰労引当金	563	1,585
アスベスト対策工事引当金	87	148
預り保証金	25,705	26,497
その他	1,397	273
負債合計	122,630	129,645
少数株主持分	—	23,094
資本の部		
資本金	—	10,355
資本剰余金	—	11,892
利益剰余金	—	166,421
土地再評価差額金	—	1,145
その他有価証券評価差額金	—	30,520
自己株式	—	△740
資本合計	—	219,595
負債、少数株主持分及び資本合計	—	372,335
純資産の部		
株主資本	193,835	—
資本金	10,355	—
資本剰余金	13,851	—
利益剰余金	170,217	—
自己株式	△589	—
評価・換算差額等	31,988	—
その他有価証券評価差額金	30,845	—
土地再評価差額金	1,143	—
少数株主持分	21,735	—
純資産合計	247,560	—
負債・純資産合計	370,190	—

連結損益計算書

科目	当 期	前 期
	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
営業収入	201,026	202,990
営業原価	126,146	130,506
売上総利益	74,879	72,483
販売費及び一般管理費	51,492	50,849
営業利益	23,386	21,634
営業外収益	2,574	2,686
営業外費用	442	446
経常利益	25,518	23,873
2 特別利益	4,899	2,526
3 特別損失	7,960	6,851
税金等調整前当期純利益	22,458	19,548
法人税、住民税及び事業税	11,323	7,401
法人税等調整額	1,165	1,000
少数株主利益	2,191	383
当期純利益	7,778	10,763

2 特別利益

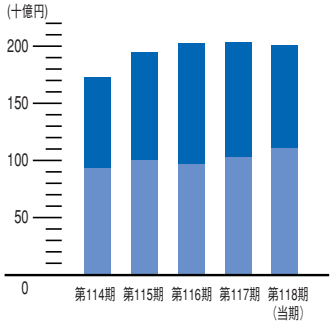
主に阪急東宝リース㈱の資産譲渡等に伴う売却益2,513百万円と投資有価証券売却益2,101百万円により、2,372百万円増加しました。

3 特別損失

保有株式評価損3,249百万円、固定資産取壊費用1,356百万円、固定資産除却損1,290百万円等によるものです。

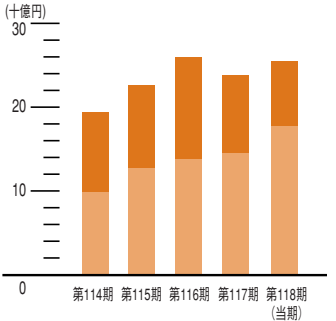
●営業収入

■中間 ■期末



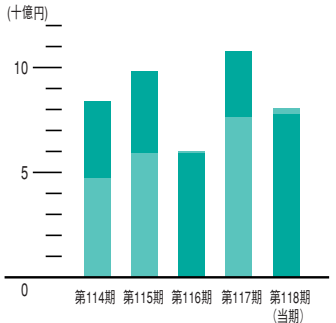
●経常利益

■中間 ■期末



●当期純利益

■中間 ■期末



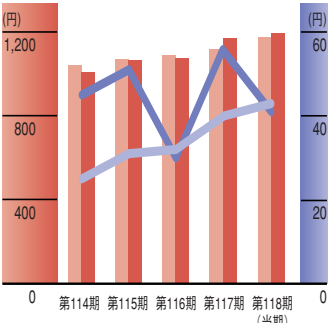
※第116期の当期純利益の減少は、減損会計の前倒し適用によるものです。

●1株当たり純資産

■中間 ■期末

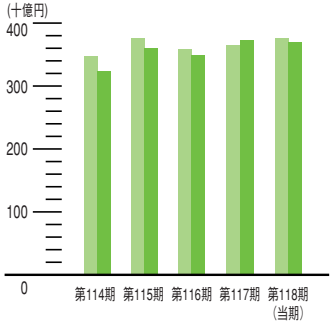
●1株当たり当期純利益

■中間 ■期末



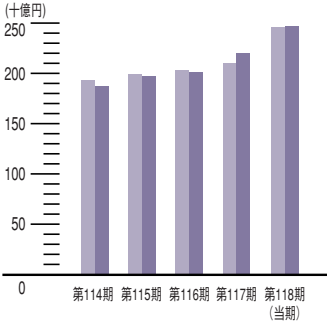
●総資産

■中間 ■期末



●純資産

■中間 ■期末



連結株主資本等変動計算書

（平成18年3月1日から平成19年2月28日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式 ¹	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計		
平成18年2月28日残高	10,355	11,892	166,421	△740	187,929	30,520	1,145	31,665	23,094	242,689
当連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当（注）			△2,810		△2,810			—		△2,810
役員賞与（注）			△227		△227			—		△227
剰余金の配当			△943		△943			—		△943
当期純利益			7,778		7,778			—		7,778
自己株式の取得				△294	△294			—		△294
自己株式の処分		1,859		445	2,305			—		2,305
株式交換による資本剰余金の増加		99			99			—		99
株主資本以外の項目の連結 会計期間中の変動額（純額）					—	324	△1	322	△1,358	△1,035
連結会計期間中の変動額合計	—	1,959	3,795	151	5,906	324	△1	322	△1,358	4,870
平成19年2月28日残高	10,355	13,851	170,217	△589	193,835	30,845	1,143	31,988	21,735	247,560

（注）定時株主総会における利益処分項目であります。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	当 期	前 期
	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,995	24,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,251	△52,509
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,302	△2,531
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	164
² 現金及び現金同等物の増減額	△533	△30,813
現金及び現金同等物の期首残高	37,197	68,010
現金及び現金同等物の期末残高	36,663	37,197

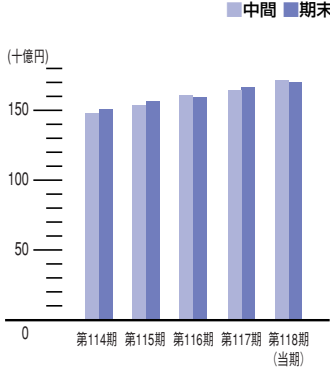
¹ 自己株式

期中取得と、株式交換による処分と、期末残高は589百万円の株主資本の控除となりました。

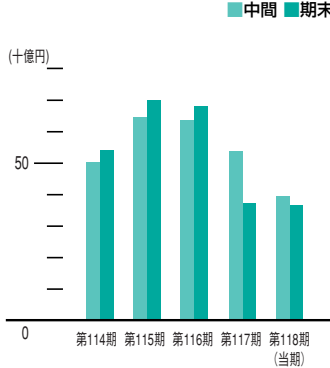
² 現金及び現金同等物の増減額

投資活動によるキャッシュ・フローの減が減少し、営業活動によるキャッシュ・フローの増の減少、及び財務活動によるキャッシュ・フローの減が増加したため、微減となりました。

●利益剰余金残高



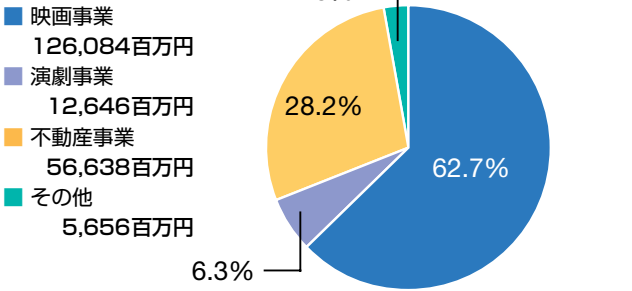
●現金及び現金同等物の残高



東宝グループ各社（連結子会社52社、持分法適用会社4社）

映画製作・配給
(株)東宝映画 …… 映画の企画・製作 東宝国際(株) …… 映画・テレビ・ビデオなど東宝作品の輸出代行、商品化権の海外向け許諾業務 ※1 東宝東和(株) …… 洋画の輸入・配給 (株)東京現像所 …… フィルムの現像、CG・デジタル合成などの処理
映画興行
TOHOシネマズ(株) … 日劇プレックス・TOHOシネマズ六本木ヒルズなどの映画館経営 東宝東日本興行(株) … TOHOシネマズひたちなか・TOHOシネマズ宇都宮などの映画館経営 東宝関西興行(株) …… TOHOシネマズ緑井・TOHOシネマズ高知などの映画館経営 九州東宝(株) …… 天神東宝・TOHOシネマズ光の森などの映画館経営 中部東宝(株) …… TOHOシネマズ木曽川・TOHOシネマズ東浦などの映画館経営 北海道東宝(株) …… 札幌東宝公衆・恵庭東宝シネマ8などの映画館経営 三和興行(株) …… 不動産の賃貸 関東共栄興行(株) …… 長野東宝中劇の経営 関西共栄興行(株) …… 松江SATY東宝・米子駅前SATY東宝の経営 九州共栄興行(株) …… 下関・長崎における映画館経営 (株)渋谷文化劇場 …… 渋谷シネタワー3の経営 ※2 (株)公衆会館 …… 東宝公衆（京都）の経営、ビルの賃貸
映像の製作・販売
(株)日本映画新社 …… PR映画・記録映画の企画・制作、映像ライブラリー事業 東宝ミュージック(株) … 映画・ミュージカルなどの音楽製作、音楽原盤・著作権の管理 (株)東宝映像美術 …… 映画・テレビ・CMなどの美術製作、テーマパーク・イベントの企画・デザイン・施工 (株)東宝ビルト …… テレビ・CMなどの美術製作、スタジオのレンタル (株)東宝コスチューム … 映画・テレビ・イベント・テーマパークなどの衣裳の製作・レンタル 東宝舞台(株) …… 演劇・テレビなどの舞台美術・小道具・衣裳の製作 東宝アド(株) …… テレビ・新聞・雑誌など広告媒体の取扱代理業、映像・ポスターなど各種宣伝広告物の企画・デザイン・制作
演劇事業
東宝芸能(株) …… 映画・演劇・テレビなどへの俳優の斡旋、演劇の企画・製作、イベントの企画・製作 (株)東宝エージェンシー … 演劇公演の団体入場券の斡旋・販売
不動産の賃貸等
国際放映(株) …… スタジオのレンタル、テレビ番組の企画・制作 東宝不動産(株) …… 東宝ツインタワービル・帝劇ビルなど不動産の賃貸、劇場内売店の経営、飲食店の経営、保険代理業、介護事業 札幌公衆興業(株) …… 東宝公衆会館（札幌）の賃貸 萬活土地起業(株) …… 長崎・熊本・鹿児島におけるビルの賃貸 新天地(株) …… 広島宝塚会館の賃貸
※1：平成19年4月1日に東宝(株)に吸収合併 ※2：平成19年3月1日にTOHOシネマズ(株)に吸収合併 ※3：平成19年3月1日に東宝(株)に吸収合併 ※4：平成19年2月28日をもって解散

●当期セグメント別営業収入比率



道路事業
スバル興業(株)他13社 … 道路の維持清掃及び補修工事、飲食店の経営、有楽町スバル座の経営
不動産の保守・管理
(株)東宝サービスセンター … ビルの管理・清掃・警備（東京・仙台・北海道など） 東宝ビル管理(株) …… ビルの管理・清掃・警備（近畿・中部・九州など） (株)東宝セキュリティ … ビルの警備
飲食・娯楽事業
東宝共栄企業(株) …… 日曜大工センター（成城・調布）、調布ゴルフコース、調布テニスクラブの経営 (株)東宝エンタープライズ … 東宝ダンスホールの経営 (株)東宝ステラ …… 東宝作品のビデオ・パンフレット・キャラクター商品などの流通・販売、映画原版・プリントの管理 東宝食堂(株) …… 飲食店の経営 ※3
リース業
阪急東宝リース(株) … 各種リース取引 ※4
持分法適用会社
オーエス(株) …… OSシネマズ ミント神戸など15スクリーンの映画館経営、OSビルなど不動産の賃貸、梅田OSホテルの経営 (株)東京楽天地 …… 錦糸町楽天地ビルの賃貸、TOHOシネマズ錦糸町など映画館の経営、ボウリング場・サウナなどの経営 成旺印刷(株) …… パンフレット・ポスター・チラシなど、各種印刷物の製作 (株)アイアクセス …… 道路の維持補修

貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成19年2月28日 現在	平成18年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	30,456	29,076
現金及び預金	3,929	4,366
受取手形及び売掛金	6,677	7,391
有価証券	399	591
たな卸資産	4,631	4,531
繰延税金資産	992	1,186
現先短期貸付金	11,992	8,999
その他	1,933	2,622
貸倒引当金	△100	△613
固定資産	232,518	219,671
1 有形固定資産	88,043	82,880
建物及び構築物	64,418	53,231
機械装置及び運搬具	607	693
器具及び備品	548	620
土地	20,335	20,335
建設仮勘定	2,133	7,999
無形固定資産	1,705	1,159
借地権	934	934
その他	771	225
投資その他の資産	142,769	135,631
投資有価証券	100,512	97,658
関係会社株式	25,030	21,377
長期貸付金	990	1,100
関係会社長期貸付金	14,152	8,720
差入保証金	1,694	8,170
その他	2,082	2,565
貸倒引当金	△1,693	△3,960
資産合計	262,974	248,748

1 有形固定資産

主に東宝南街ビルの竣工により建物及び構築物が11,186百万円増加し、建設仮勘定が5,866百万円減少いたしました。

2 純資産の部

会社法の施行により、従来の「資本の部」が「純資産の部」へと表示方法が変わりました。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年2月28日 現在	平成18年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	33,278	42,151
買掛金	3,618	7,618
関係会社短期借入金	15,230	19,880
1年以内返済予定長期借入金	1,233	—
未払金	2,156	3,414
未払費用	3,838	4,849
未払法人税等	2,529	1,145
賞与引当金	257	290
役員賞与引当金	90	—
アスベスト対策工事引当金	47	139
その他	4,277	4,812
固定負債	72,169	56,133
社債	20,000	20,000
長期借入金	1,550	—
関係会社長期借入金	11,965	—
繰延税金負債	17,105	14,804
退職給付引当金	2,054	2,020
役員退職慰労引当金	—	836
アスベスト対策工事引当金	87	148
未払役員退職慰労金	1,036	—
預り保証金	18,370	18,272
リース資産減損勘定	—	50
負債合計	105,448	98,284
資本の部		
資本金	—	10,355
資本剰余金	—	10,603
資本準備金	—	10,603
利益剰余金	—	101,942
利益準備金	—	2,588
任意積立金	—	80,662
土地圧縮積立金	—	197
別途積立金	—	80,465
当期末処分利益	—	18,692
その他有価証券評価差額金	—	27,838
自己株式	—	△276
資本合計	—	150,463
負債及び資本合計	—	248,748
2 純資産の部		
株主資本	129,614	—
資本金	10,355	—
資本剰余金	10,690	—
資本準備金	10,603	—
その他資本剰余金	87	—
利益剰余金	108,614	—
利益準備金	2,588	—
その他利益剰余金	106,026	—
土地圧縮積立金	197	—
別途積立金	85,465	—
繰越利益剰余金	20,364	—
自己株式	△47	—
評価・換算差額等	27,911	—
その他有価証券評価差額金	27,911	—
純資産合計	157,525	—
負債・純資産合計	262,974	—

損益計算書

科目	当 期	前 期
	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
営業損益		
営業収入	95,619	103,475
営業原価	51,773	57,670
売上総利益	43,845	45,805
販売費及び一般管理費	27,915	31,494
営業利益	15,930	14,310
営業外損益		
収入利息及び配当金	4,797	4,606
その他の営業外収益	419	347
営業外収益計	5,217	4,953
支払利子	297	222
その他の営業外費用	135	36
営業外費用計	433	259
経常利益	20,714	19,004
特別利益		
貸倒引当金戻入益	1,850	—
関係会社特別配当金	1,440	—
受入補償金	—	916
過年度損益修正益	—	303
その他	—	49
特別利益計	3,290	1,268
特別損失		
固定資産取壊費用	682	2,714
固定資産除却損	328	1,356
立退補償金	521	458
投資有価証券評価損	3,168	10
関係会社清算損	33	—
本社移転費用	—	106
貸倒引当金繰入額	—	1,120
アスベスト対策工事引当金繰入額	—	287
その他	—	64
特別損失計	4,734	6,118
税引前当期純利益	19,270	14,154
法人税、住民税及び事業税	6,469	4,217
法人税等調整額	2,263	△97
当期純利益	10,537	10,034
4 前期繰越利益	—	9,601
4 中間配当額	—	944
4 当期末処分利益	—	18,692

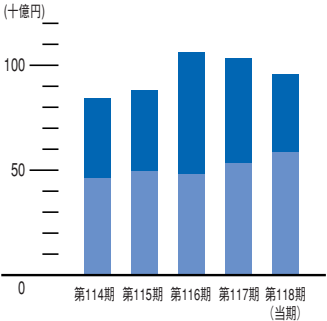
3 投資有価証券評価損

政策保有目的の投資株式を、市場価格の下落に伴い、評価減したことにによるものです。

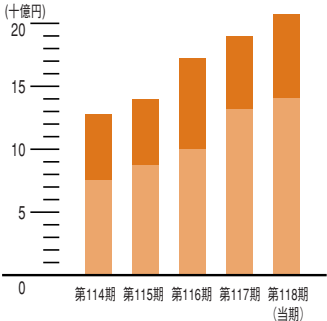
4 前期繰越利益・中間配当額・当期末処分利益

会社法の施行に伴い「株主資本等変動計算書」(次ページ)を作成しているため、当期より表示しておりません。

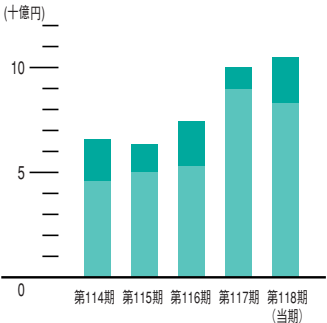
●営業収入



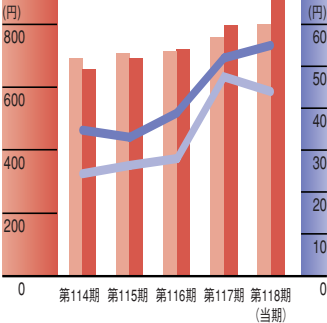
●経常利益



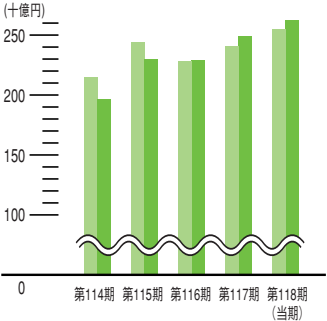
●当期純利益



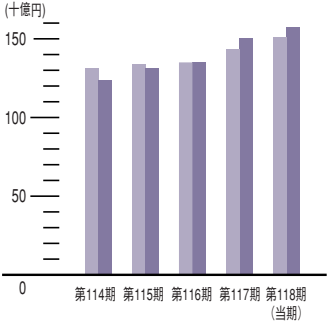
●1株当たり純資産
●1株当たり当期純利益



●総資産



●純資産



株主資本等変動計算書

(平成18年3月1日から平成19年2月28日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本											評価・換算 差 額 等	純資産合計
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金					自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合 計				
						土地圧縮 積 立 金	別途積立金	繰越利益 剰 余 金					
平成18年2月28日残高	10,355	10,603	—	10,603	2,588	197	80,465	18,692	101,942	△276	122,625	27,838	150,463
当事業年度中の変動額													
別途積立金の積立(注)							5,000	△5,000	—		—		—
剰余金の配当(前期分)(注)								△2,831	△2,831		△2,831		△2,831
剰余金の配当(当中間分)								△943	△943		△943		△943
役員賞与(注)								△90	△90		△90		△90
当期純利益								10,537	10,537		10,537		10,537
自己株式の取得										△294	△294		△294
株式交換による自己株式の減少										523	523		523
株式交換による その他資本剰余金の増加			87	87							87		87
株主資本以外の項目の 当事業年度中変動額(純額)												73	73
当事業年度中の変動額合計	—	—	87	87	—	—	5,000	1,671	6,671	229	6,988	73	7,062
平成19年2月28日残高	10,355	10,603	87	10,690	2,588	197	85,465	20,364	108,614	△47	129,614	27,911	157,525

(注) 定時株主総会における利益処分項目であります。

1 中間配当

平成18年8月31日現在の株主の皆様へ943,949,565円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

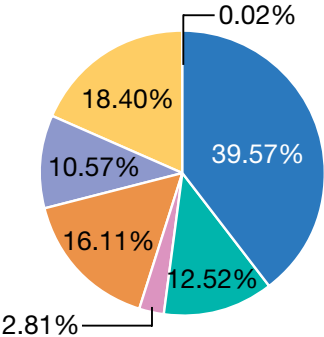
2 自己株式の取得・株式交換による自己株式の減少

単元未満株式買取額32百万円に加え、取締役会決議により261百万円分の自己株式を取得し、既保有分を含めた合計株数の中より523百万円分を三和興行株式会社との株式交換に用い、同社を平成19年2月28日をもって完全子会社といたしました。

●東宝(株)当期部門別営業収入比率

- 映画製作・映画営業 …… 397億円
- 映画興行 …………… 125億円
- 映像制作 …………… 28億円
- 映像事業 …………… 161億円
- 演劇興行 …………… 106億円
- スタジオ・不動産経営 … 184億円
- その他 …………… 1億円

(各部門とも数字は内部振替控除前のものです。)



配当金について

配当金につきましては、おかげ様をもちまして第118期業績の好調により、別紙の通り1株15円として定時株主総会においてご決議をいただきました。

当社といたしましては今後一層の経営の充実をはかり、業績向上を期すべく努力いたす所存でございます。なにとぞ引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

配当金のお支払いにつきましては、特にご指定のない方は同封の郵便振替支払通知書により、払渡期間(平成19年5月25日～平成19年6月25日)中に最寄りの郵便局にてお受け取りください。(同通知書をお取引の普通または当座預金口座のある銀行窓口にお持ちいただくことにより、その口座へ入金することもできます。)

また、銀行預金口座振込をご指定の方にはお振込みの手続をいたしましたので、同封の「利益配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」によりご確認ください。

来期の配当予想について

第119期の配当予想につきましては、1株当たり中間5円(普通配当)、期末15円(普通配当5円、特別配当10円。)の計20円を予想いたしております。

会社の利益配分の基本方針

当企業集団の主要事業であります映画・演劇は、作品により損益の変動が絶えず、安定配当確保と財務体質強化のため内部留保に努めてまいりましたが、収益に対しバランスの取れた株主還元を行うことも重要と認識しております。

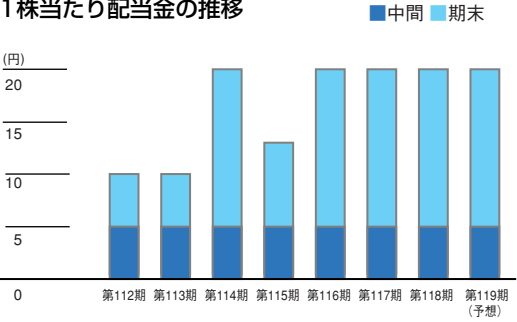
かかる方針のもとに当社は第99期(1987年)より年額100円の配当を続けてまいりました。また2002年4月には投資単位引下げのため1:10の株式分割を実施し、第114期(2002年)は創立70周年記念配10円を合わせ年額20円の配

当を実施、第115期は3円の特別配当を含め年額13円の配当を行い、さらに第116期から第118期は好業績を反映させた10円の特別配当を含め年額20円の配当を行いました。

今後も年額10円の普通配当を堅持しつつ、業績と資金需要に意を配りながら株主還元に努めてまいる所存です。

内部留保の使途につきましては、優れたコンテンツの獲得、シネマ・コンプレックスの展開、所有不動産リニューアル等、中長期的展望に基づき企業集団収益基盤の強化に当ててまいります。

1株当たり配当金の推移



※2002年4月(第114期中)に1:10の株式分割を実施いたしました。第113期以前の配当金は比較のため10分の1に換算して表示しております。

株式の状況

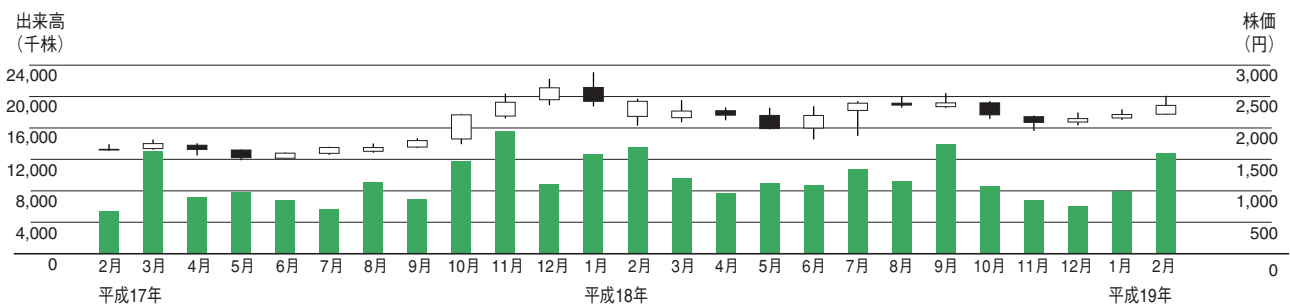
発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	188,990,633株 (自己株式26,942株を含む)
株主数	27,379名 (前期末比 443名増加)

大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
阪急阪神ホールディングス株式会社	22,807	12.06
阪急不動産株式会社	15,150	8.01
株式会社阪急百貨店	13,664	7.23
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	6,093	3.22
株式会社フジテレビジョン	4,940	2.61
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	4,249	2.24
社団法人映画文化協会	4,005	2.11
株式会社電通	3,779	2.00
日本生命保険相互会社	3,239	1.71
株式会社丸井	3,223	1.70

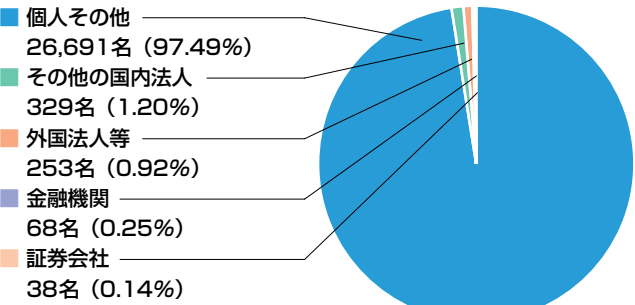
(注) 出資比率は、自己株式26,942株を控除して計算しております。

株価・出来高の推移

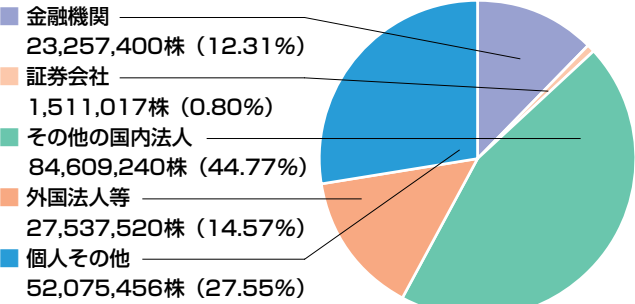


所有者区分別株式分布状況

株主数



株式数



会社概要（平成19年2月28日現在）

会社名	東宝株式会社
設立	昭和7年8月12日
資本金	10,355,847,788円
従業員数	311名 但し、嘱託5名を含み、出向者161名を含みません。
本社	東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
支社	関西（大阪）
スタジオ	東京 世田谷（成城）
演劇直営劇場	本社直轄1劇場（帝国劇場）
その他の営業所 (主な賃貸ビル)	有楽町センタービル（通称有楽町マリオン） 東宝日比谷ビル（通称日比谷シャンテ） 東京宝塚ビル ナビオ阪急（通称HEPナビオ）
主な事業内容	映画の製作、売買、賃貸借、 テレビ放送番組等の制作及び販売、 映画のパンフレット及びビデオソフトの製作 並びに販売、商品化権に関する事業、その他
演劇	演劇の企画、製作及び興行
不動産経営	土地・建物の賃貸借、その他

役員（平成19年5月24日現在）

代表取締役 取締役会長	松岡 功	
代表取締役 取締役社長	高井 英幸	映像本部長兼映像本部国際担当 兼グループ経営企画担当
専務取締役	山田 啓三	不動産経営担当
専務取締役	千田 諭	映像本部映画営業、同宣伝各担当
専務取締役	中川 敬	スタジオ担当
専務取締役	増田 憲義	演劇担当
専務取締役 (昇任)	高橋 昌治	人事、労政、総務各担当 兼グループ経営企画担当補佐
専務取締役 (昇任)	島谷 能成	映像本部映画調整、同映像制作各担当
常務取締役 (昇任)	大隈 廣	労政担当
常務取締役 (昇任)	越智 幸次	関西支社長
取締役	小林 公平	阪急電鉄株式会社名誉顧問
取締役	藤原 正道	映像本部映像事業担当兼映像事業部長
取締役	浦井 敏之	経理・財務、情報システム各担当 兼特定取締役
取締役	村上 主税	TOHOシネマズ株式会社代表取締役社長
取締役	島田 達也	人事部長

常勤監査役	赤井 紀雄	監査役会議長兼特定監査役
常勤監査役 (新任)	三屋 秀明	
監査役	大西昭一郎	弁護士
監査役	大橋 太郎	阪急電鉄株式会社相談役

■株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日
定時株主総会 5月中
配当金受領株主確定日 期末配当金 2月末日
中間配当金 8月31日
基準日 定時株主総会 2月末日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定める。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
変更届等用紙のご請求は次の通り承っております。
電話 0120-244-479
(三菱UFJ信託銀行株式会社)
インターネットホームページ
<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

公告掲載URL http://www.toho.co.jp/toho_ir/
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって公告いたします。)

■株主優待

株主映画招待券交付基準

1,000株以上	毎月	1枚
2,000株以上	同	2枚
3,000株以上	同	3枚
5,000株以上	同	6枚
10,000株以上	同	10枚
20,000株以上	同	15枚
30,000株以上	同	20枚
50,000株以上	同	25枚
100,000株以上	同	30枚

2月末日現在の株主に6月から11月までの6ヶ月分を5月中に発行。
8月末日現在の株主に12月から翌年5月までの6ヶ月分を11月中に発行。

株主映画優待券交付基準（800円で映画をご覧頂けます。）

100～499株	半年	2枚
500～999株	半年	8枚

2月末日現在の株主に6月から11月まで半年間通用の券を5月中に発行。
8月末日現在の株主に12月から翌年5月まで半年間通用の券を11月中に発行。

〒100-8415
東京都千代田区有楽町一丁目2番2号

東宝株式会社

総務部 電話 (03) 3591-1214
<http://www.toho.co.jp>

●表紙のご紹介

背景は東宝スタジオ内風景。
上：かつての特撮用大ブルー跡地に建てられたNo.12stとNo.10stの間からNo.9st方向。
下左：プロダクションセンター中庭。格好のコミュニケーション・スペースです。
下中：アクターズセンター内のレストラン。メニューも好評。
映画作品は、このスタジオで撮られたほんの一端。左上より「ゴジラ」（昭和29年）、「浮雲」（同30年）、「大学の若大将」（同36年）、「用心棒」（同36年）、「連合艦隊」（同56年）、「細雪」（同58年）。